



発行日 2018年8月1日

日本新聞労働組合連合 東京都文京区本郷2丁目17-17 井門本郷ビル6階 電話 03(5842)2201 FAX 03(5842)2250 ホームページ http://www.adress-shinbunoren.or.jp/ (年間購読送料共2000円) (組合員の購読料は組合費に含めて徴収しています)

# 副委員長に杉山氏 (全下野)

## 定期大会、9月26日再開

新聞労働連は7月24、25日の2日間、東京都内で第133回定期大会を開催した。メインスローガンに「人権侵害許さず 新聞労働者の権利を守ろう」を掲げ、ハラスメント行為を許さない方針などを確認した。また、「高度プロフェッショナル制度」導入に反対する特別決議も行った。今定期大会では本部長・副委員長に任期終了に伴い、新委員長に杉山恵一氏(全下野新聞労組、非専従)が就いた。一方、朝日新聞労組から選出予定の新委員長は単組手続き中であるため、承認手続きを延期。大会を一旦休会とし、9月26日に再開大会を招集して新執行部体制をスタートさせることが承認された。(2、3面に定期大会特集)

## 高プロ反対など決議

定期大会では2017年度決算での単年度黒字化を達成したことが報告されたほか、18年度予算の財政方針として、引き続き、組合員1人当たり月額6100円(犠牲者救済金10円を含む)を労連会費とする(1)、「組織拡大チャレンジ100プロジェクト」を推進する(2)などが承認された。さらに18年度の運動方針では、長時間労働の是正のほか、男女平等の労働環境実現などを掲げるなどの方針が確認された。

特別決議『働き方改革』の高度プロフェッショナル制度を職場に導入させず、労連3役人事に関しては、小林基秀委員長(北海道新聞労組)および大津昭浩副委員長(化学工業日報労組、非専従)が退任。新たに杉山副委員長(全下野労組、非専従)が就いた。相川和男書記長(日経新聞労組)は再任した。新委員長は承認については、選出単組の朝日労組内での手続き終了を待ち、今大会での

選出された役員  
書記長 相川和男(日経) 再  
書記次長 加藤健(新聞合同) 再  
選出中(朝日) 伊藤明弘(関西合同) 再  
中央副委員長 松永喜代文(大読) 再  
杉山恵一(全下野) 新

法律以上の厳しい残業規制を実現する取り組みを強めようも採択された。  
単組活動を表彰する組合活動企画賞に北海道新聞労組の「年間企画ニュース」による新しい働き方の問いかけ、東日印刷労組の「春闘アンケート改善の取り組み」、新聞通信合同ユニオンの「パワハラ撤廃・労組立て直しの取り組み」の計3単組が受賞した。

佐久間利幸(福民) 新  
村山健太(千葉) 新  
西村誠(共同) 新  
宇佐見昭彦(東京) 再  
高津和也(新潟) 再  
松永喜代文(大読) 再  
斉藤章平(神戸大) 新

斉間大輔(山陰) 再  
植村慎一郎(高知) 再  
天本篤志(西日本) 再  
外間愛也(琉球) 再  
大宮司聡(朝日) 再  
塚本善隆(朝日) 再  
遠藤拓(毎日) 再

山田基晴(毎日) 再  
本田克樹(読売) 再  
羽鳥大介(日経) 再  
会計監事 星岳(茨城) 新  
鹿野順一(山形) 新

案・承認された。  
なお、定期大会休会期間中は新聞労働規約41条2項(中央執行副委員長が同委員長を代行する場合を規定)に基づいて、杉山副委員長が本部長代行に就く。再開大会の公示は来月、新聞労働連機関紙9月1日付号にて行う予定。

容について相手側が職場内ではらし、噂になっていたためと知り、ショックを受けた。  
放送局の女性は、酒席で胸を触った同僚男性に後日謝罪を求めたところ、取り合ってもらえなかった上に胸を触ったことを吹聴された。男性は上司から注意されたようだが、女性も「冗談が通じない人間」と受け止められ不利益を被ったという。

## 深刻なセクハラ被害4件

承認を保留した。このため定期大会は休会を再開するために9月26日

に再開大会を招集することが中央執行委員会から提

冗談・からかいの被害を受けた。多くの女性記者が被害に遭っているため上司に相談したいが、加害男性の報復や仕事を外されるのが怖いという。

新聞労働連が加盟する日本マスコミ文化情報労組会議(MIC)、議長・小林基秀(新聞労働連委員長)は7月1日、「日本労働弁護団・女性労働プロジェクトチーム(P.T)」(代表・長谷川悠美弁護士)の協力を得て、メディアで働く女性を対象とした電話相談「緊急セクハラ110番」を新聞労働連事務局で行った。相談は4件にとどまったが、悪質・深刻な事例が報告された。このうち、新聞・通信の女性は、酒席で他社の男性記者から身体接触や性的な

新聞労働連が加盟する日本マスコミ文化情報労組会議(MIC)、議長・小林基秀(新聞労働連委員長)は7月1日、「日本労働弁護団・女性労働プロジェクトチーム(P.T)」(代表・長谷川悠美弁護士)の協力を得て、メディアで働く女性を対象とした電話相談「緊急セクハラ110番」を新聞労働連事務局で行った。相談は4件にとどまったが、悪質・深刻な事例が報告された。このうち、新聞・通信の女性は、酒席で他社の男性記者から身体接触や性的な

冗談・からかいの被害を受けた。多くの女性記者が被害に遭っているため上司に相談したいが、加害男性の報復や仕事を外されるのが怖いという。

## WEBアンケート17日まで

把握するために、セクハラWEBアンケートを8月17日まで行っている。回答は性別を問わず可。アンケートのサイトはURL: <https://kikimas.net/mic/>



MICが緊急電話相談

相談者からの話を聞く女性弁護士

## 「特定日の広告に強み」

### 営業職懇、新聞の未来探る

販売、広告、事業を対象とした営業職場全国集会在7月6日、都内で開かれ、全国から38人が参加した。集会では2つの基調講演が行われた。まず最初に「新聞広告と新聞社のこれから」をテーマに、新聞の可能性と題して電通第2統合ソリューション局長の楠本和哉さんが講演。楠本さ

んはデジタル広告の現状を解説し、新聞の広告の可能性として「何かの記念日など特定の日に不特定多数の人達にPRする広告は新聞が強みを発揮できる」と提

言した。続いて、東洋大学の薬師寺克行教授が、「東洋大学社会学部コミュニケーション学科の『新聞活用プロジェクト』について」と題して講演した。同大学では今年4月から1年間、1年生157人全員の自宅に「教材」として朝日新聞または読売新聞を配達(講読料は大学が負担)し、学生に新

聞を読ませる取り組みを行っている。このプロジェクト担当の薬師寺教授は、学生のメディアリテラシーや情報収集・分析スキル強化が狙いとして、「学生たちは新聞への興味が高まっている」と現状を述べた。

## 山陽労組「約束守れ」

### 一時金問題、県労委で主張

山陽新聞労組が不当労働行為の救済を追加で申し立てた2016年分の「一時金8カ月」問題で、岡山県労働委員会の第4回調査が7月4日に行われた。組合側は「労使関係を正常に戻してほしい。15・5%の賃下げをした時に『予測がはずれて儲かったら一時金を年間8カ月分以上払う』と約束したのだから、払ってほしい」と言っているだけだ」とあらためて訴えた。秋以降に行われる証人尋問に向け、組合側は藤井書記長を証人申請済み。この日の席上で「当時の川端労働

も最重要証人。ぜひ証言してもらいたい」と、会社側証人への尋問も求めた。次回調査は8月23日。17年分の一時金についても5月に追加の申し立てをしており、県労委は16・17年分を併合審査する方針。15年以前分は中央労働委員会の再審査が5月に結審し、今秋にも命令が出る見通し。【争議弾圧対策副部長・宇佐見昭彦】

# 定期大会宣言

新聞労連は7月24、25の両日、東京・浅草で「人権侵害を許さず 新聞労働者の権利を守ろう」をメインスローガンに、第132回定期大会を開きました。小林基秀委員長は、大会冒頭のあいさつで、在京テレビ局の女性記者に対する財務省前事務次官のセクハラハラスメント問題をきっかけに、マスコミ業界のセクハラが大きくクローズアップされたことなどにふれ、「私たちはどれだけ女性社員が苦しんできたかを理解してきたのだろうか。セクハラを黙認している業界がいくら偉そうなことを言っても説得力がない。セクハラをなくすることが一番の労働改善だ」と訴えました。

新聞労連は、4月18日、「セクハラは人権侵害書」財務省は認識せよ」との抗議声明を発表。直後の21、22日に労連が企画した全国女性集会では、約50人の参加者一同が、「セクハラに我慢するのはもうやめよう」とするアピール文を採択し、社内・社外ともにセクハラは断固として許さないという強い意思を示しました。

労連は5月、日本新聞協会に対して、「メディアで働く女性の労働改善に関する申し入れ」を行い、メディア業界で増加する女性労働者の家庭と仕事の両立や、キャリアアップ、セクハラ対策を加盟各社に徹底するよう訴えました。セクハラ、パワハラなどのハラスメントは人権侵害です。放置することは、新聞業界をはじめとするメディア業界の未来を閉ざすことになりかねません。労連加盟単組は、ハラスメント根絶の取り組みをさらに強めなければなりません。ハラスメントは、性別や年齢に関係なく、加害者にも被害者にもなります。私たち新聞労働者も一度、自身の振る舞いを見つめ直す必要があります。

新聞業界で働く者の命と健康を守り、真の働き方改革を実現することも欠かせません。6月に政府・与党は、多くの労働者の反対を無視し、「働き方改革関連法」を成立させました。労働基準法をはじめ雇用対策法、労働安全衛生法、労働契約法など取り扱った法規が多岐にわたり、働く者の権利を前進させると評価できる部分が少ない働き方改革関連法には、私たちは一貫して反対してきました。事実上の「働かせ放題」となる高度プロフェッショナル制度（以下、高プロ）や、過労死ラインを超える設定の「上限時間規制」は、直ちに私たちの命と健康を脅かすもので、看過できません。私たちは、高プロの廃止と、上限規制の引き下げを強く訴え続けるとともに、職場に高プロを持ち込まない、また法定時間内での無期雇用転換が始まりました。雇止めなどの問題を想定し、加盟単組は非正規のみなさんを支援していくことが重要です。

労連が支援する争議のなかでは、新聞通信合同ユニオン電波新聞支部の時間外労働・休日出勤手当の支払いを求めた残業代請求訴訟で、昨年12月、東京地裁で和解が成立しました。この争議の結果、組合員へのパワハラ、違法行為を働いてきた社長を退任させることができました。また、山陽新聞労組については、夏季一時金の支給額と県労委あっせんへの出席拒否をめぐる争議と、正副委員長を印刷職場から排除する異職種転任問題への支援が続いています。正副委員長を別会社運営の新工場に転出させない理由に、印刷部門の別会社化に反対する山陽労組の方針を挙げた会社の対応は、申しかな労働組合法違反です。労連は4月、岡山県労働委員会に不当労働行為の救済を申し立てました。労連の総力を結集し、支援をしていくことが必要です。

新聞業界は部数と広告需要の低迷が続き、回復の兆しは見えませんが。沖繩では経費削減を理由に、沖繩タイムス・琉球新報の2社による印刷の協業化の動きがあります。ただし、経営合理化を目的としただけの労働者の不利益変更は認められません。労連を通じて一層連携し、知恵を共有して、会社に対抗していきます。

事の正誤ではなく、自分が気に入らない報道は、「捏造」「フェイク」と決めつけ、自分が気に入らない行動は「反日」「売国」とのしるという風潮が広がっています。私たちは新聞人として愚直に事実を伝えていくと同時に、フェイクニュースに対しては、フェイクだと発信していくことも必要でしょう。かつて新聞が戦争に加担した、煽ったとの痛烈な批判から結成された新聞労連にとって、「非戦・非核」の取り組みは不可欠です。先日の西日本豪雨をはじめとした災害では、家族を亡くしたり、家が倒壊したりした人々が多数いました。沖繩では、戦後70年以上経った現在も米軍基地を押しつけられたままで、住民は問題への対応に疲弊している状況です。私たちには、こうした辛苦に遭遇している市民の声を紙面ですくい上げる責任があります。

言論・表現の自由を守り、平和と民主主義を支える新聞の使命は、失われることはありません。新聞のできることはまだあります。労連、各単組が主体となって信頼を勝ち取っていくことが重要です。団結と連帯の力をもって、私たちの働きがよくなり、向上を目指していくことを、ここに宣言します。

2018年7月25日 新聞労連第132回定期大会

## 退任あいさつ

### 総力結集へ「沈黙は禁」

前委員長 小林 基秀

てこなかつた私には、どう答弁すればいいの想像もつかなかつた。素の委員長だからこそ、こうした論客たちの力を借りるしかないと思ひました。そこで呼び掛けたのが「沈黙は禁。必ずしも同じ考え方ではない人たちに協力してもらつたら、徹底して議論するしか道はないからです。委員長を終えた今の教訓は「変にリターンシップを

なかりませんでした。その半面、若手の方の「パワ」も頼もしいと思ひました。本部事務局では毎月、登録組合数の減少傾向が報告されたにもかかわらず、活動の質を落とさずに、組織拡大に継続して力を入れていってほしいと思ひます。関東地連と東京地連で交互に副委員長を選出する口上にて千葉日報労組、全野野労組に続いて3期目。全野野労組から選出された杉山恵、副委員長にハト」を獲りました。全国の皆さんからの応援をよろしくお願ひします！

## 次の仲間へバトンタッチ

前副委員長 大津 昭浩

1年にわたり、新聞労連本部の活動のお手伝いをさせて頂いていただきました。非専従者としてただ貢献できただけで、結果として、活動の効果が寄与したのであれば幸いです。10年ぶりの労連活動でしたが、見えるところでは外から見ると、これまで外から見ると、境について、セクハラがあつてはならないの言うまでもない。人権侵害もその通り。今後女性の割合が多くなるのは確実で、取り組みは重要だ。女性が労組役員になれるような環境整備は積極的に進めべきだ。しかし、3割以上の数値目標には疑問を感じる。な

境について、セクハラがあつてはならないの言うまでもない。人権侵害もその通り。今後女性の割合が多くなるのは確実で、取り組みは重要だ。女性が労組役員になれるような環境整備は積極的に進めべきだ。しかし、3割以上の数値目標には疑問を感じる。な

# ハラスメント許さない

## 大会発言要旨

第132回定期大会では13人の代議員・役員が発言した。以下、発言要旨。  
山陽労組(田淵信吾) 中労委と県労委で係争中の争議について、中労委は5月31日の審問で藤井書記長が証人に立ち、賃金制度合意の条件に一時金で補填の言葉があつたと証言。命令を待つ。

## 組合方針の違いで人事を差別

早島の別会社新工場へ出向希望を出した山陽労組の2人に出向拒否を通告、異職種転任を強行した事件は、山陽労組が別会社化に一貫して反対方針である事が理由と社が明言。2人以外は全員希望通り出向。現在、異議を留め工程管理部で働いている。 たつた3人で闘うのは全国の仲間を支援のおかげだ。お礼申し上げる。

宮古毎日労組(垣花) 当労組は12年前、宮古島で初めてできた地元資本の民間の組合。その後、同じマスコミの宮古新報、宮古テレビにも組合ができた。沖繩マスコミ労協宮古連絡会議を3労組で作り、平和学習会を毎年開いている。宮古島は完全な保守地盤で、最近はその保守新聞社、現在の私たちの新聞社に対する批判記事掲載したから、そういう報道姿勢を学べるのが組合のいいところだ。

宮古新報(今吉誠美) 会社は7月1日、読売新聞社と受託印刷の基本合意を結び、提案。労使間には事前協議協定があり、労使共同決定が原則。即抗議したが社は1日前に提案したのが事前協議だとして、新たな収益事業に取り組み事については組合も賛成の立場だが、責任をもって印刷するためには職場を

低下、一時金も3分の1に減らされた。これからは組合員皆の生活を守るため、支援願いたい。

宮古新報(今吉誠美) 会社は7月1日、読売新聞社と受託印刷の基本合意を結び、提案。労使間には事前協議協定があり、労使共同決定が原則。即抗議したが社は1日前に提案したのが事前協議だとして、新たな収益事業に取り組み事については組合も賛成の立場だが、責任をもって印刷するためには職場を

## 初年度の団交でベア、一時金増

河北労組(末永智弘) 新聞社のパワハラ体質を早く一掃しないと若者は新聞業界から離れるし、入ってこなくなる。組合が先頭に立ち取り組もう。労働運動の重要性が増している。今の労働条件はこれまでの闘いの成果だ。それ末永(河北労組)

東京五輪は復興五輪と言わなければならない。五輪需要による資材高騰、人手不足は西日本豪雨の復興にも確実に影響する。地方を末永(河北労組)

野古新基地建設の護岸工事が進んでいる。鶴長知事は埋め立て承認取り消しの手続きに入る。県民投票の署名を末永(河北労組)

野古新基地建設の護岸工事が進んでいる。鶴長知事は埋め立て承認取り消しの手続きに入る。県民投票の署名を末永(河北労組)

野古新基地建設の護岸工事が進んでいる。鶴長知事は埋め立て承認取り消しの手続きに入る。県民投票の署名を末永(河北労組)

野古新基地建設の護岸工事が進んでいる。鶴長知事は埋め立て承認取り消しの手続きに入る。県民投票の署名を末永(河北労組)

## 新任あいさつ



新任委員長 杉山 恵一

この度、第132回定期大会にて承認頂き、新聞労連本部の副委員長に就任させていただきます。微力ながら活動の上、

執行部を支えられるよう努力して参ります。 今回の副委員長ポストは、引き受けるにあたり戸惑いました。ですが、私共の過去の争議の際、新聞労連、全国の各単組の皆さんのお力添えは感謝の言葉し

ありませんでした。私共は、その気持ちに「少しでも恩返しできれば」と思つた。我々単組の現書記者の熱意ある依頼であること、何よりも現委員長が私と同期入社であることで受ける決断をしました。

現在、私は営業職場で勤務しています。単組内では過去に青年部長の経験がありましたが、新聞労連での活動は初めての経験です。期待と不安が入り混じった状態ですが、定期大会に参加し、各単組の皆さんと交流し、活動の権利拡大による着実な前進、これら労働組合の必要性を見

ていきたいと思います。習うに慣れる」と言う言葉があります。過去2年間、日置元副委員長、大津前副委員長のお二人が築き上げた土壌を引き継ぎ、慣れることから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

全面的に賛成した。長崎労組(山口栄治) 4月の女性集会に参加し、男目線は分らないことを教養を学ばせられた。前回は中央委員会だったが、集会に参加した男性はわずか。執行部が参加する。単組に持ち帰る。行動に移せることが増えると思ふ。長崎は女性部長にも早速セクハラの問題を取り組んでいく。ワークライフバランスのカードを作成中だ。若い人を中心に働きやすい職場を求める声は多いが、社の制度が十分活用されていない面もあり企画した。育児や介護しながら働き続けられる職場環境の重要性を女性集会で学んだ。

## 相川書記長・討論のまとめ

質疑討論には、13人の代議員から発言があつた。山陽争議は県労委傍聴や中労委公正命令要請物販など引き続き支援する。電波新聞争議の勝利解決は組合の存在意義を示した。当該人と新聞通信合同ユニオンを称えたい。

宮崎日日労組の事前協議・同意違反の問題だが、労働対等の原則に立ち、会社が大事と賛否あつた執行部に女性が1人もいないという不自然な本部は、読者西部から、命と健康を守る働き方や取り組みを共有したい。

沖繩の新聞印刷協業化は、組合員の労働条件を守り、労使協約違反を許さず、アドバンスにかけたい。新聞を指導する学生が魅力に思える産業にすることを考える。多くの女性が参加

をやるための重要性、手の能力を伸ばすため、ハラスメントの職場環境を改善する。労働組合の重要性を見

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

## 労組活動、多くの女性に

をやるための重要性、手の能力を伸ばすため、ハラスメントの職場環境を改善する。労働組合の重要性を見

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

京都市から新聞の信頼を広げる取り組みについて、フリージャーナリストと連帯することから始めて1年間頑張りたいと思ひます。どうぞよろしくお願い致します。

# 近畿・委員長に上野氏

## 3地連で定期大会

近畿地連は7月9日、第一阪府立労働センターで開催した56回定期総会を大阪市の大



熱い討論を繰り広げる登壇者たち

報告、方針とも原案通り可決された。来賓として挨拶した相川和男・新聞労連本部書記長は「組合は長時間

# 北海道は牧之段氏

新聞労連北海道地方連合(道地連)第57回定期大会が7月14日、札幌市中央区の北海道新聞社で開かれた。2018年度の活動方針案や予算案を承認し、新委員長に牧之段英樹氏(北海道新聞労組)が選出された。

大会には坂本一司委員長(苫小牧民報労組)ら17年度役員と代議員19人が出席。新聞労連本部の相川和男書記長も来賓として臨席した。

あいつに立つた坂本委員長は「災害取材などで昼

# 事件その後 追う責務 シンポ

近畿地連は定期総会に続き、記念シンポジウム「関西ジャーナリズムの向かう道」を開催。冤罪被害者の青木恵子さんと、裁判を支援した伊賀カズミさん(日本国民救援会中央本部副会長)の対談を聴講した。

青木さんは、大阪市東住吉区で小学6年の娘を保険金目的で殺したと疑われ、1995年から2015年まで拘留所・刑務所で過ごし、再審無罪となった。娘を失った悲しみの中で自供したことがその後の裁判に

労働を止める最後の砦だ。活動の輪を広げよう」と訴えた。

新委員長に上野傑氏(神戸デイトール労組)、副委員長に太田尚樹氏(日刊スポーツ西日本労組)を選出した。書記長は京都労組から選出の予定。上野氏は「組合員の無関心を解消し、こんなことができたらいい」を形にする取り組みをしよう」と抱負を語った。

夜を問わず働く中でも、法に基づいてきちんとした働き方ができるように注視していかねばならない」と強調。労連の相川書記長は

# 関東は上毛労組から選出へ

関東地連定期大会が7月13、14の両日、群馬県渋川市伊香保町の温泉旅館で開かれた。ホストの上毛新聞労組を中心に8単組40人あまりが出席。経営民主化、

読者・市民に信頼される新聞づくりなど6項目の闘いの方針を了承し、今後も健全な新聞発行を続けるために、労力をいわず団結して前進することを誓った。

今年の関東地連は、持続可能な活動に向け、経費節減をテーマに据えた。隔月に開催の常任委員会のない月に、従前は書記長会議を開いていたが、今期は緊急時

【上毛新聞労組・中里徳良】

# 相手の立場で思考 怒りを鎮めるカギ

## 東京地連が学習会

怒りの仕組みと対処法を学ぶ「アンガーマネジメント」学習会が7月3日、東京地連主催で開かれ、東京地連の役員や単組組合員ら

り、どのような対応をすべきかのアドバイスを受ける参加型の学習会となった。講師を務めたのは弁護士でアンガーマネジメント・シニアファシリテーターの田部知江子さん。アンガーマネジメントとは、怒りの感情と上手に付き合うための心理教育で、怒る必要があることは上手に怒り、怒る必要のないことには怒らなくすることを言う。

【「こうあるべきだ」と考える理想と、他人の考える理想のギャップが怒りを生じた。】

# 青女部9月8日から全代

新聞労連青年女性部は6月29、30の両日、東京都の労連事務局で第3回代表委員会を開き、2018年度全国代表者会議(全代)を9月8、9の両日に台東区民会館で開くことを決めた。全国代表者会議では、新



# ジムでクライミング 仕事も組合も忘れて集中

東京地連委員長

山村 学 (共同労組)

立ち寄り、壁に挑んでいる。クライミングの何がそんなに面白いのかと聞かれることもあるが、まったく飽きないのが不思議なところ。腕力や柔軟性を要求されるフィジカルな要素と、手順や微妙な体の位置の違いが成否を分けるパズル的な要素を併せ持っているからだろう。



クライミングジムでボルダリング壁に挑む人々たち

私がクライミングを始めた1980年代にはこのジムはなく、登りたければ休日に岩場まで出かけるしかなかった。街中でトレーニングするには石垣を登るくらいしかなかった。警官に職務質問されたことも。今は大半の人がジムでクライミングを始め、まさに壁に隔世の感がある。壁に向かっていると仕事や組合のことなど、みな忘れて集中できるクライミング。やったことがない方は一度体験してみたいかがですか。

減少し、若手の離職率も高まる中、未来を担う新入社員に組合の魅力を伝えることで、青女部活動の活性化を図るのが目的。新人への組合概要説明▽メンター制度などのフォロー体制▽レクなどの活動提案の3テーマで各2班ずつ、計6

【青年女性部長・吉村瑛人】

# 大手元書記逝く

新聞労連書記を務めた大が、6月20日、尿管癌のため亡くなりました。享年69歳。大手さんは群馬県出身。1949年生まれ。早稲田大学理工学部工学基礎実験室勤務を経て72年に新聞労連本部書記局へ入局。労連本部に勤務していた34年間、新聞労連青年婦人協議会、機関紙部、新聞研究部を担当し、06年に57歳で早期退職しました。退職後は新聞OB会(東京)に参加し活動していました。